

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会 WG3 透水・圧密
平成19年度 第1回ワーキング 議事録(案)

日時	平成 19 年 6 月 27 日(水) 14:00 ~ 17:30		場所	地盤工学会 小会議室	
グループリーダー	大島 昭彦		サブグループリーダー	西垣 誠	×
WG 幹事長	渡部 要一		WG 幹事	山本 肇	
メンバー	大向 直樹		メンバー	神谷 浩二	×
メンバー	佐藤 弘行		メンバー	藤原 照幸	
メンバー	森脇 武夫				

:出席 ×:欠席

議事録担当: 渡部

配布資料:

資料番号なし:平成 19 年度第 1 回ワーキング議題書

資料 - 1:WG3 透水・圧密 構成員名簿

資料 - 2:平成 19 年度第1回グループリーダー説明会議事録

資料 - 3:室内試験規格・基準委員会 平成 19 年度 第1回 議事録

資料 - 4:赤本の改訂作業に関する編集工程

資料 - 5:JIS A 1217 土の段階載荷による圧密試験方法

資料 - 6:JIS A 1227 土の定ひずみ速度載荷による圧密試験方法

資料 - 7:JIS A 1218 土の透水試験方法

資料 - 8:赤本 付録 JGS0411・JGS0412・JGS0311

資料 - 9:赤本 付録 基準およびデータシートの改変経緯

資料 - 10:第1版 ~ 第3版までの正誤表

資料 - 11:第4版以降の正誤表

資料 - 12:JIS 確認に対する調査

資料 - 13:委員会から質問一覧

資料 - 14:ISO/TS 17892-5 ドラフト(Incremental loading oedometer test)

資料 - 15:規格・基準改正等の手続き例(「土と基礎」収録の資料)

資料 - 16:JIS A 1227 改正案

1. ワーキングリーダー挨拶:

ワーキングリーダーの大島先生より赤本改訂における本WGの趣旨等の説明がなされた。

2. 出席者の自己紹介

資料 - 1

WGメンバーの自己紹介が行われた。

本日の出席者の中で、前回の赤本改訂に携わったのは、大島リーダーと森脇委員のみ。

3. 資料説明・編集工程等について

資料 - 2 ~ 資料 - 15

渡部幹事長より、編集工程、WG3が担当する規格・基準(JIS A 1217:土の段階載荷による圧密試験方法, JIS A 1227:土の定ひずみ速度載荷による圧密試験方法, JIS A 1218:土の透水試験方法, JGS 0411:土の段階載荷による圧密試験方法, JGS 0412:土の定ひずみ速度載荷による圧密試験方法, JGS 0311:土の透水試験方法), 赤本付録にある「付録 基準およびデータシートの改変経緯」, 赤本の正誤表, JIS の見直し, ISO の動向, JIS や JGS を改正する際の手続き

等について説明があった。

WG3担当分はすべてJIS化されているが、JGSも存続されている。JISは2種類以上の方法がある時に、併記ではなく、原則は第1の方法、ある条件のときは第2の方法を採用するような記述になっているが、JGSは2種類以上の方法を単なる併記にとどめる形も認められている。このため、WG3が担当する3規格・3基準の内容は完全に対応・一致しているわけではない。なお、JGSについてもJIS書式化が要望されており、新規制定基準はJIS書式が義務づけられている。しかし、既存のJGSをJISに書式変更することは義務ではなく、その判断は各WGに任されている。JIS書式化は、ISO書式化を意味しており、これは、ISOの審議が始まったときに日本案としてすぐに出せるように準備しておくことが、国際戦略上重要であるとの判断から基準部会にて承認された方針である。なお、書式の統一であって、上述のように2種類以上の方法に対する整理までは要求されていないと思われる。WG3では、今回の改訂ではJGSのJIS書式化はしない方針で合意した。

4. 規格・基準の見直しについて

資料16

森脇先生より、JIS A 1227の改正案と理論的根拠の説明がなされた。定ひずみ速度圧密試験を透水試験として捉え、粘土の応力～ひずみ関係を仮定することなく透水係数を算出し、これと体積圧縮係数から圧密係数を算出する方法に変更してはどうかという提案である。

審議の結果、ASTM D 4186-06でも採用されていることを踏まえ、さらに、既にJIS A 1227は実務でも使われ始めているが、改正内容はソフトの軽微な修正で対応でき、得られる結果の数値そのものは基本的に変わらない(ばらつきの程度が異なる程度)ことから、社会的な影響は許容範囲にあると判断し、森脇先生の提案に基づいて改正することで合意した。7月末までに、改正案を森脇先生が作成することとなった。その際に圧縮装置や圧縮速度の選定についても検討し、見直しの必要があれば案の中に盛り込むこととなった。透水係数～間隙比関係をプロットするためのデータシート案の作成も森脇先生が対応する。なお、データ整理に全応力 $\Delta\sigma$ が使われている理由について、従来規格では曖昧であったが、これを解説で説明する方針が合意された。解説を執筆する段階で対応することになる。

JIS A 1217において、供試体を圧密リングに挿入する際にカッターリングを使わないケースも多いことが指摘された。規格ではカッターリングを使うことが原則となっており、試験業務の実情を踏まえた規格に改正する方針が合意された。これについては「備考」に1～2文を入れる程度の改正で対応できることから、7月末までに渡部幹事長が改正案を作成することとなった。

5. 必要ページ数(A4版換算)について

資料なし

大幅な変更はないことから、現状に加えて、4ページ程度の増量となる見込みである。

6. その他

次回開催:7月5日13:00～14:00 名古屋国際会議場1号館4階143号室

透水関係のキックオフミーティングとなる。時間が短いので、時間厳守でご参集願いたい。

以上